

3月御命日法要 法話にかえて

2月22日(旧暦)は聖徳太子の1400回忌に当たる。浄土真宗の本堂余間には太子の御影が掛けられているが、宗祖親鸞聖人は太子のことを、日本に初めて仏教を広めてくださった「和国の教主」であると生涯仰がれたのである。

太子の教えとして「十七条憲法」が有名だが、太子のものとして「世間虚仮、唯仏是真」という言葉が伝わる。太子の死後、妃の橘大郎女たちばなのおおいちづめが太子を偲んで作った天寿国てんじゅこく繡帳しゅうちやうに織り込まれたものだという。実は聖人も、「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておはします」(歎異抄)と同意の言葉を述べられている。

お二人の“世の中はすべて嘘、偽りである、”という言葉は、新型コロナウイルスで人間の自己中心性が露わとなり、さまざまな情報に右往左往し続けたこの1年間で痛感させられた。では、真とはどういうことなのだろうか?それは「私たちのちかい」(上に全文)に示されていると感じている。

見えない不安や恐怖から自分の殻に閉じこもりたくなる時こそ、しなやかな心と振る舞いを心がけ、穏やかな顔と優しい言葉を大切にしていきたい。仏さまのように。社会全体を不安が覆う今こそ、阿弥陀さまに手を合わせ、お念仏を称える中で、我が身をかえりみつつ、ともにただひと凡夫であると、周りの人と喜びや悲しみを分かち合い、日々に精一杯つとめていけたらと思う。(D)

「2021(令和3)年2月10日(水曜日)本願寺新報『赤光白光』より」